



医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/> 〔e-mail〕 hhsp1966@violin.ocn.ne.jp

面会制限緩和について

コロナ禍で、1年半にわたり面会制限を行ってまいりましたが、緊急事態宣言も終わり、八王子の高齢者の2回のワクチン接種も80%以上の方が終わった段階になりました。いよいよ、コロナウィルスと共存する段階に入ったと思います。しかし、まだ、感染症対策に関わる法律が改正になっていないので、15分以上の接触は濃厚接触者となってしまいます。さらに、病棟に多くの外部の人が入ることでリスクが高まりますし、逆に病棟の床には耐性ブドウ球菌や緑膿菌がいるかもしれません。そこで、基準を設けて面会制限を緩和し、直接お会いいただけるようにしたいと思います。

面会における基準（抜粋）10月4日現在

1. 面会される方はワクチンを2回接種済みであること。
2. 面会は予約制です。
予め病棟宛てにご連絡ください。
たくさん来られると対応ができませんので
ご遠慮いただく場合があります。
3. 1グループの人数は2人まで。
4. 1回の面会は10分以内。
5. 病院の受付で面会票を記入後、
 - ・マスク、ビニール手袋を装着
 - ・手荷物はビニール袋に入れて持ち運び、床やベッドの上などに置かないようにお願いします。
 - ・食品や大きな荷物は病棟には持ち込まないようお願いします。



一方、洗濯物の受け渡しについても、病棟まで上がっていただき、従来同様に行いますが、急な面会についてはできませんので、上記のルールを守っていただき、事前のご連絡をお願いします。（基準の詳細は、当院ホームページにてご確認ください）

院長 平川 淳一

急性期病棟の渡邊千恵師長が、副看護部長に昇格しました

令和3年10月から、渡邊師長が副看護部長に昇格しました。渡邊副看護部長は、OL 経験もあり、一念発起して看護師になり、妻として、母として、子育てをしながら看護の仕事を熱心にやってこられた方です。非常に謙虚な人で、温和で粘り強い反面、怖がりな泣き虫で人間味のある、私も大好きな人です。自己主張はあまりされませんが、人の話をよく聞き、受け止める包容力を持っています。副看護部長という肩書は大きいかもしれません。

私も、26年前院長になったとき、就任当日の朝、布団から立ち上がったときにめまいに襲われ、もう1度、布団に横になったことを思い出します。でも、やってみると、自分一人では何もできずに、いつも皆様のお陰でやっていけると思い知らされました。きっと、渡邊副看護部長も皆様のご協力と応援で、しっかり期待に答えて花を咲かせてくれると信じています。どうか、皆さん、よろしくお願いします。

院長 平川 淳一



渡邊千恵 副看護部長

南3病棟の特徴 ～新人看護師の意気込み～

南3病棟は、転倒や自殺未遂による骨折後の多発外傷、脳梗塞後遺症、誤嚥性肺炎、糖尿病、癌末期のターミナルなど多様な疾患と、それに併せて認知症や統合失調症、躁うつ病など精神的な疾患を持つ患者様を受け入れている精神科身体合併症病棟です。精神疾患の治療とともに、機能回復やADL（日常生活動作）能力の向上をはかり、社会や家庭への復帰を目的としています。多様な疾患を持った患者様に合わせた医療を提供するため、多職種が連携してチーム医療を展開しています。

私は今年の4月に准看護師の資格を取得し、南3病棟に配属されました。配属され6ヶ月近く経とうとしていますが、入院してくる患者様は多様な疾患を持っており学ぶことが多いです。リハビリ目的で入院される方や終末期で看取りの看護を希望される方などその患者様が目指している目標に向かって看護計画を立案・実施していくことの大切さを感じています。例をあげると、リハビリが進みADLが回復することに喜びを感じると共に、退院が近づくにつれ病院を離れ、家に帰る不安感が強くなり精神的に落ち込んでしまうなど身体面と精神面を両方見ながらケアしていくことに大変さを感じるとともにやりがいを感じています。

私は学生時代にいくつかの病棟に所属していましたが、特に南3病棟の取り組みで素晴らしいと感じたのは、患者様が亡くなった時に1人1人に対してデスカンファレンスを行



筆者

い、亡くなるまでに患者様に対してもっとこのような看護を提供できたのではないかと話し合い、これからの看護に生かしていこうという姿勢でした。スタッフの方々が患者様のことを思い取り組む姿勢は素晴らしいものであると感銘を受けました。

最後に、まだ看護業務で慣れないことが多いですが、先輩看護師が優しく丁寧に指導してくださるためとても感謝しています。1人前の看護師になれるように勉学に励み、患者様からも信頼され安心してもらえるような看護師を目指して日々精進していきたいと思えます。

南3病棟 准看護師 狩野 雅彦

スタッフごとに講座を開いています

地域生活支援室より

今年6月よりデイケアでは、毎週水曜日に地域生活支援科スタッフ（看護師、精神保健福祉士、公認心理士、作業療法士）がそれぞれ講師となり、得意分野を活かして講座を実施するプログラムを開始しました。特徴としては、一方的に職員が講義するのではなく、話題提供の後、メンバーと意見交換するスタイルになっています。

これまでの内容としては、アディクション、当事者研究、サイコドラマ、身体と心の問題、スキーマ療法、精神症状と作業、WRAP、アサーション、ピアサポート、訪問看護などがあります。毎回10名前後のメンバーが参加し、話し合いだけでなく、テーマによっては実際にロールプレイしたり、作業に取り組んだりしています。

私が担当させていただいた回では、集団プログラムの効用をテーマにしました。集団プログラムでは、他者の意見を聞き、共感する（される）ことで、自己理解のきっかけや、自己肯定感につながると言われています。このことについて、具体的にデイケアの活動を通して、メンバーと意見交換することができました。また、集団にもさまざまな目的があり、デイケアプログラムでいえば、従来のカラオケや卓球のように、楽しむ・くつろぐものもあれば、SSTのように課題解決のもの、また、アルコール当事者ミーティングのように、気づく・変わるプログラムもあります。

メンバーとの意見交換では、自分を表現し、他のメンバーの体験から学ぶことができる当事者ミーティングが人気でした。



筆者による講演の様子

このプログラムは現在2クール目に突入し、メンバー同士、そしてスタッフとも活発な話し合いの場になってきています。スタッフにとっては、話題提供するために勉強しなおすなど大変な部分もありますが、メンバーにとって地域生活支援科にどのようなスタッフがいる、専門職としてどのようなことを得意としているのか知ってもらう機会にもなっています。また、このプログラムから当事者研究のプログラムが新たに立ち上げられるなど、プログラムを生産する場にもなっています。今後もこのプログラムを通して、メンバーと様々な分野を学びあう機会にしていきたいと思っています。

地域生活支援科 作業療法士 中津川 さえ子

「この授業を受けたかった」を目指して

歯科科から

2018年から年に一度、言語聴覚士石山寿子先生のご依頼で、国際医療福祉大学成田キャンパスにて言語聴覚士学科の生徒さんに口腔ケアの講義をしています。依頼の当初は「私が講義をするのですか!？」とまさきに答えました。臨床畑の私が大学の生徒さんに何を教えたら良いのか戸惑いました。そんな中、石山先生の「臨床と学校での勉強を結びつける、臨床でお手あげ状態、頭パニックにならないように育てる」という想いをお聞きして、まさに専門職として出来る唯一の事としてお受けしました。

言語聴覚士は口の中を触れる職種であり言葉、発音、嚥下の先生でもあります。私は講義の冒頭で「口の中を知らずして言語は語れない」と伝え、口腔ケアの重要性、歯並びによる滑舌と発音、咀嚼との関連性、高齢化による口腔機能の低下を説明しています。

口腔ケアは、患者の心身の健康増進に寄与することがすでに明らかになっています。また言語聴覚療法と組み合わせることで、口唇や咽頭等の動きを活発化させ摂食嚥下

機能や構音機能、精神機能を高め、誤嚥性肺炎を抑える効果が期待されています。

昨今、日本歯科医師会が8020（ハチマルニイマル）運動を推奨している事もあり、多くの方は自分の歯が残っています。しかし実際には病気や障害のある虚弱な高齢者も多く、義歯を使っている方が多数います。義歯を見た事がない、触った事がない若い人だからこそ、高齢者の口の中の特徴を知りどんなことに気をつけるのか、口腔機能の衰えはどのようなものなのか、嚥下機能にどういった影響がでるのかという知識が必要です。そのためにケアする人、ケアを受ける人の口腔ケア演習を行うだけでなく実際に義歯に触れる事や義歯の取扱いを説明します。私の講義と演習を通じて全身疾患の知識を踏まえ口腔ケアの基本をしっかりと理解し（口の中はデリケートな部分なので）ケアを受ける側の気持ちを体験することは相手の尊厳に配慮ができ、臨床の現場ですぐに活躍できる事を願っています。

歯科 歯科衛生士 平井 みつよ

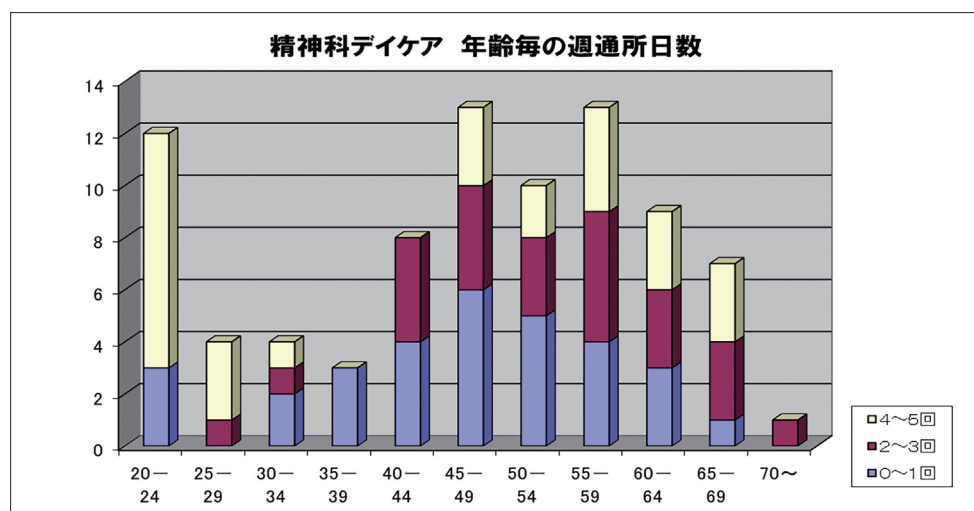


筆者



精神科デイケアメンバーの年齢別・通所日数に見る 利用目的の変化

平川病院の精神科デイケアには20代から70代の方まで登録されています。皆さん、個別の目的でデイケアに通所されていますが、年齢も利用目的に差異を生じさせる一因となります。当院精神科デイケアメンバーの年齢毎の通所日数（週あたり）を20歳～70歳まで5歳ごとに区切って算出してみたグラフが以下となります。



20代のメンバーの大半が週4日から5日来所されているのがわかります。精神科デイケアで実施している発達障害専門プログラムに通所しているメンバーを中心とした20代のメンバーは、就労を中心とした社会復帰を目指している方が多く、集中的にデイケアに通所しています。スポーツや作業などの体験型プログラム、自身の症状や障害を含めた理解を促進するための心理教育やミーティング系のプログラムに参加され、活動量を増やすために毎日来ている方が多くなります。

30代、40代前半のメンバーは1回から3回来所している方が増える傾向にあります。病気と闘いながらも、自身の健康な側面を生かしながら就労や日常生活、新しいことに向けた訓練にチャレンジしている時期です。就労支援機関や自立訓練施設などと連携しながら支援させていただく方も多く、デイケアは再発予防あるいは安全に入院治療につながっていく場所として利用されることもあります。

40代後半から50代後半にかけて、デイケアの利用日数が再び増えてきます。体力面の衰えなどからこれまでのような頑張りが利かなくなりデイケア通所を増やす方向にシフトされるメンバーもおられます。最近では生活習慣による身体疾患の予防のためにデイケアの運動プログラムを利用しながら健康維持を図るメンバーも多くなりました。

60代以降はデイケア利用を自身の日中活動の軸として定期的に通所されるメンバーが増えてきます。内科的な疾患で入院・手術をしても、デイケアへの通所を再開することが日常生活の再開につながると考えて懸命に通所される方も多い年代となります。介護制度への移行などを医師・デイケアスタッフと話し合っていく時期でもあります。

デイケア利用は個別の目標に即して行われます。個別のニーズと年齢層によるニーズとに柔軟に対応できる運営をしていきたいと考えております。

こころの扉 その210 ～回想法～

朝晩の肌寒さを感じる日も増えてきましたが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。私にとって秋はなんといっても“食欲の秋”ですので、今年も美味しい秋刀魚を食べることを楽しみにしております。

さて、本日は心理療法科で実施している回想法についてお話させていただきたいと思います。回想法プログラムは毎週月曜日の午前中に担当者2名で内科の機能訓練室にて実施しております。複数の病棟から参加者がいらっしやり、平均して4～6名程度が集まります。

回想法は精神科医バトラーが提唱した心理療法です。それまで、高齢者の回想は過去への執着とされ否定的な見方をされてきました。しかし、バトラーは高齢者が自分の歩んだ人生を振り返り、その意味を模索することは極めて普遍的であり、そこに専門家が共感的に介入することで、心理的な安定につながる可能性を示唆しました。

確かにプログラム中、患者様が昔懐かしい話をしているときに、いつもより表情が柔らかくなり、生き生きとした様子で回想されているような印象を受けます。実際に参加された患者様から「久しぶりに懐かしい話をできて楽しかった」「こういう機会がないと忘れちゃうので聞いてもらえて良かった」といった感想をいただけることもあります。病棟のスタッフさんからも、回想法に出席した後は状態が落ち着いている、と

うかがうこともあり、週に1回のわずかな時間ではありますが、グループでそれぞれの思い出を共有する体験は貴重に感じています。



患者様に懐かしい写真をお見せするスタッフ

日本の高齢化率が急速に進む中、当院においても入院されている患者様の高齢化も進んできています。高齢者の方が人生を振り返る時に寄り添えるような心理的援助のひとつとして、今後も回想法グループを運営してまいりたいと思います。

最後に余談ではありますが、そろそろ毎年恒例の『秋の味覚』をテーマとしたセッションがあります（私と同じように、秋といえば秋刀魚が楽しみです、という患者様もいらっしやるかな…?）。こんな食べ物がおいしかったね、お母さんがこれを作ってくれてね、と患者様から聞けることを楽しみにしたいと思います。

心理療法科 公認心理師 伊藤 冬花

第10回 日本精神科医学会学術大会参加レポート

日本精神科医学会学術大会が開催されました。コロナ禍ではありましたが、大会準備委員会の皆様のご尽力により研鑽の時間を過ごさせて頂きました。

演題を募集した際、準備期間が短かったにも関わらず6つの候補が挙がり、大会ではオンデマンドで発表されました。病院がより一層一丸となることが求められる時勢に肅々と実践された日頃の治療・リハビリ・チームとしての協働が報告されましたので紹介致します。



当院からの参加者

- ①精神科療養病棟入院患者のリハビリテーションに対する動機づけと関連する要因(内田CP他)
- ②精神療養病棟における疾患別リハビリテーションの特徴と効果(上菌PT他)
- ③管理栄養士が果たすべき役割とは—タスクシフティング・タスクシェアリング—(田中主任他)
- ④発達障害をライフステージを通じて地域で支援体制を構築する取り組み(渡部Dr他)
- ⑤成人の自閉症スペクトラム障害を対象にした専門プログラムの役割(井出CP他)
- ⑥統合失調症にビタミンB群欠乏症ポリニューロパチーによる四肢麻痺を合併した症例に対するリハビリテーション実践の報告(風間PT他)

今後実践と検証(研究)の反復を持って希望に応えるために、できることを探っていきたいと考えております。

平川病院 教育委員会

令和3年度 南多摩医療圏若年性認知症講演会 開催のお知らせ

本年11月、東京都多摩若年性認知症総合支援センターとの共催で講演会を開催します。詳しくは当院のホームページ掲載のご案内をご確認ください。

- 【日時】令和3年11月21日(日) ※参加申し込み締め切り：11月8日(月)
- 【定員】100名 【参加費】無料 【対象者】若年性認知症について関心のある方
- 【会場】北野市民センター(東京都八王子市) ※WEB開催に変更する可能性あり
- 【プログラム】

基調講演「若年性認知症の診断・治療・支援」

講演「若年性認知症の人と共に歩む」

講演「『精神科医療の利用の仕方』～認知症疾患センターの場合～」



基調講演 講師 布村明彦 先生
東京慈恵会医科大学附属第三病院
精神神経科教授・診療部長

編集後記

大谷翔平、クインティプル(quintuple)達成という耳慣れない英語?、打撃:100安打、100打点、100得点、投手:100投球回、100奪三振の5部門で100の大会に達成した。野球に興味がない方には、理解が出来ないかも知れませんが、スゴイです。そんなさ中、真鍋淑郎さんノーベル物理学賞獲得というニュース。物理学賞難しい研究?50年前に地球の温暖化にCO2が影響していると世界で初めて提唱された方とのこと。何となくわかりやすくスゴイ。日本人のスゴイに心が晴れた一週間であった。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

